

ご利用者・職員を新型コロナウイルス感染から守るための対応について

R2.4.20 介護老人保健施設 夢の里 施設長 岸川由美子

隣の福岡県では感染者が増加し、コロナウイルスに接するリスクが高くなっています。厚労省通達・全老健連絡・他機関の対応を参考に夢の里では次のような対応をします。

- 1) まず罹患しない。目鼻口から感染は成立します。
 - ① 外で物を触った自分の手にはウイルスがいると考えましょう。汚染された自分の手で顔を触って起こる接触感染を起こさない。
 - ② 家庭職場以外で、不要不急の人との活動や人が多い場所への外出は避けましょう。意識行動変容が求められています。
 - ③ 3密理解できていますか？井戸端会議していませんか？職場でも日常生活でも換気の良いところでマスクをしてお互い離れて必要最小限の会話に努めましょう。エレベーターや休憩室、マスクを外す食事中は要注意です。
- 2) 持ち込まない。
 - ① 職員：出勤したら物を触る前にまず石鹸で手洗いをし、ウイルスを持ち込まない。出勤前検温。37.5 度以上や呼吸器症状や味覚異常等あれば報告し出勤停止。勤務中に熱発や症状が出ればすぐに報告し早退。解熱後 24 時間以上経過し、咳などの症状が改善すれば出勤可能。家族の熱発等では、家族に明らかな新型コロナ疑いがなければ、出勤は可能。出勤時は下記 3) のうつさない感染対策を十分に行う。(ただし職場に余裕があればさらに数日自宅待機が望ましい)。
 - ② 通所・ショートステイ利用者：家で熱や症状有れば連絡もらい迎えに行かない。乗車前に検温し 37.0 度以上や呼吸器症状や味覚異常等あれば利用中止。利用途中に熱発や症状が出ればすぐに報告し早退や隔離対応。家族に熱や症状がある場合も原則利用中止。来所時に手の石鹸での洗浄またはアルコール消毒をする。
 - ③ 新規入所者：熱や症状があれば原則入所延期。解熱後 24 時間以上経過し肺炎がなく症状が改善すれば入所受け入れ可能。
 - ④ 面会原則中止。洗濯物を取りに見えるご家族その他来所者は、玄関外で対応し建物内への立ち入りを原則禁止。立ち入る必要がある場合はリスク確認と感染対策を行う。
来所者のトイレ利用は原則中止し、施設内のドアやボタン等に触れる行為を避けていただく。
看取り等で少人数短時間面会を行う家族やカンファレンス参加家族等は、感染リスクの有無(熱・症状・福岡その他感染多発地区への 2 週間内来訪歴)確認と感染対策(マスク・手洗い)を必ず行う。玄関受付と、カンファレンスや家族面談時は、アクリル等の遮断板をテーブルに設置する。
 - ⑤ 職員・通所ショートステイ利用者の体温・症状の有無の記録表を作成保存し、建物内への来所者の氏名日時体温症状の有無も記録保存し、感染者が発生した時の疫学調査に協力する。

3) うつさない。

- ① 自分が無症状感染者であるリスクを常に考え行動する。マスク・手洗いの徹底。大便(ウイルス+)後は蓋をして流し、換気を行う。できるだけ利用者の正面からの介入を避ける。声掛けは相手の顔に息がかからないように配慮。
- ② ドアノブ・手すり・エレベーターボタンのアルコール等での定期的消毒。

4) 入所者対応。

既存の入所している利用者が持ち込むことはありません。施設内で発生を疑う状況でない時は、利用者の生活・活動は通常に対応で可能ですが、

- ① できるだけ間隔をとる。
- ② 集団リハビリもできるだけ間隔をとり、大きな発声を伴う活動は控える。
- ③ 感染発生時の対応のために、毎日全員検温し症状の有無を確認し、記録保存する。
- ④ 入所者に発熱や症状があれば、軽微であっても必ず個室隔離対応。食器は使い捨て食器使用しPトイレまたはおむつ対応。介助処置時は感染対策(マスク・使い捨て手袋・使い捨て防護服・ゴーグルまたはフェースガード・換気)を行う。
- ⑤ 新規入所者や外出後の利用者は注意深く観察する。外出は車内と自宅に限定。
- ⑥ 入所者や職員に、施設内新型コロナウイルス感染が疑われるときは速やかに保健所に届けます。

5) 新型コロナはいつ収束するの？

短期説から、長期共存説まで多彩な説があります。

「6週間から10週間」に及ぶ隔離処置が唯一の策ですが、新しいウイルスに対し集団としての免疫が不十分なためあくまで一時的な改善かもしれません。人類がコロナに打ち勝つにはワクチンが開発され、多くの人に行き渡ることが必要であり、その期間はうまく行って「18ヶ月後」と言われ長期戦の可能性もあります。インフルエンザのように共存するのであればさらなる治療薬の開発も望めます。

医療・介護・生活必需品の製造運送販売にかかわる人は休業できません。反面、たくさんの方が職を失い生活の基盤が脅かされていて深刻な社会問題になっています。高齢者や家族を支える素晴らしい仕事ができることに感謝し、介護崩壊を起こさないよう感染対策をすると同時にコロナに負けない体力をつけましょう。医療崩壊を起こさないよう踏ん張っている医療関係者にエールを送りましょう。